『両立支援の今、そして今後』

プログラム

袋の中の資料をご確認ください。

資　料

【厚生労働省】
- がん患者・経験者の就労支援のあり方に関する検討会報告書　概要
- がん患者・経験者の就労支援のあり方に関する検討会報告書

参考資料等

【東京都】
- がんの早期発見及びがん患者の治療と仕事の両立支援に関する正しい理解のためのシンポジウム

【独立行政法人労働者健康福祉機構】
- 産業保健 21　2015.1　第 79 号
- メンタルヘルス不調における治療と仕事の「両立支援」

【独立行政法人労働者健康福祉機構東京労災病院】
- 病院案内
- 人間ドックのご案内

【独立行政法人国立がん研究センター】
- がんと仕事の Q&A
- 日々歩

【静岡県立静岡がんセンター】
- 特定機能病院静岡がんセンター
- 特定機能病院静岡がんセンター　概要・診療状況
- 富士山麓先端健康産業集積プロジェクト
- 抗がん剤治療と眼の症状
- 抗がん剤治療と末梢神経障害
- リンパ浮腫の概要　下肢（あし）編
- リンパ浮腫の概要　上肢（腕）編
- 抗がん剤治療と脱毛
- 放射線治療と脱毛
- 抗がん剤治療と皮膚障害
- 放射線治療と口腔粘膜炎・口腔乾燥
- 抗がん剤治療と口腔粘膜炎・口腔乾燥

※会場の外にも資料がございますので、ご自由にお持ち帰りください。

がんの治療と就労 両立支援

勤労者医療フォーラム 市民公開講座

【日時】 **平成27年 2月7日(土)**
13：00～16：00

【日時】 **時事通信ホール**

【共催】 独立行政法人労働者健康福祉機構、独立行政法人労働者健康福祉機構 東京労災病院
【後援】 東京都、東京都医師会

平成 26 年度　日本医師会生涯教育制度　3 単位　カリキュラムコード　5.　7.　10

プログラム

13：00~13：05　**開会挨拶**　武谷　雄二　独立行政法人労働者健康福祉機構　理事長

13：05~14：50　**第一部：講演**

【司会】寺本　明　がん両立支援モデル事業中核的施設 東京労災病院　院長

● **がん体験から両立支援を考える**

鳥越俊太郎　ジャーナリスト

● **がん生存者研究の推進**

山口　建　静岡県立静岡がんセンター　総長

● **国の施策と国立がん研究センターの取組み**

堀田　知光　独立行政法人国立がん研究センター 理事長・総長

● **労災病院が行う両立支援のモデル事業について**

野村　和弘　独立行政法人労働者健康福祉機構 特任研究ディレクター

15：00~15：55　**第二部：パネルディスカッション**

【司会】嶋田　紘　横浜市立大学　名誉教授

【パネリスト】宮田　辰徳　厚生労働省　健康局　がん対策・健康増進課 課長補佐

山田　善裕　東京都福祉保健局　医療政策部 歯科担当課長

山口　建　静岡県立静岡がんセンター　総長

堀田　知光　独立行政法人国立がん研究センター 理事長・総長

野村　和弘　独立行政法人労働者健康福祉機構 特任研究ディレクター

門山　茂　東京労災病院 治療就労両立支援（がん分野）部長

河村　裕美　NPO 法人オレンジティ　理事長

15：55~16：00　**閉会挨拶**　加藤　賢朗　独立行政法人労働者健康福祉機構　理事

主催者挨拶

武谷　雄二

（たけたに・ゆうじ）

独立行政法人
労働者健康福祉機構　理事長
総括研究ディレクター兼務

本日は、「勤労者医療フォーラム　市民公開講座『がんの治療と就労　両立支援』」に御参加いただき、有難うございます。

我が国においては、国民の２人に１人が一生の内にがんに罹患すると言われていますが、がんの早期発見や治療法の進歩も相まって５年相対生存率が改善傾向にある一方で、平成16年の厚生労働省研究班報告によると、がんに罹患した勤労者の約３割が離職している状況でもあります。

私どもの労働者健康福祉機構の使命は「働く人々の健康と福祉の増進」であり、医療、産業保健の分野で事業を展開しておりますが、その中で、労災疾病等医学研究の一環として、平成21年度から５年間にわたり、がん罹患勤労者の治療と就労の両立に関する研究を行ってまいりました。

一方、平成24年に閣議決定された「がん対策推進基本計画」では、がんになっても安心して働き暮らせる社会の構築が目標とされ、更に、平成26年に厚生労働省健康局に設置された「がん患者・経験者の就労支援のあり方に関する検討会」は、行政・医療機関等の関係者の協力の下、がん患者・経験者に対する就労支援の推進が求められると報告しており、社会的な関心･期待が益々高まっているところです。

当機構におきましても、平成26年度より「治療就労両立支援モデル事業」として、治療就労両立支援センターを中心に、労災病院のがん患者さんを対象とした治療と就労の両立支援の実践に加え、産業保健の担当者や就労現場の意見を取り入れながら医療機関向け支援マニュアルを作成し、普及活動を行う予定でございます。

本日のフォーラムでは、「両立支援の今、そして今後」をテーマに、がんに罹患した勤労者の職場復帰や就労を継続する上での問題点、行政や各医療機関の取組の現状、今後の方向性について、講演・パネルディスカッションを行い、参加された方々と情報を共有し、討論を行いたいと考えております。皆様方の積極的な御参加をお願い申し上げます。

略　歴

1973年東京大学医学部卒業。東京大学医学部教授、東京大学医学部附属病院病院長、独立行政法人国立がん研究センター理事を経て2012年より現職。

第一部：講演

「がん体験から両立支援を考える」

鳥越　俊太郎（とりごえ・しゅんたろう）

ニュースの職人

略　歴

1940年 3月13日	福岡県吉井町（現うきは市）生まれ
1958年 3月	久留米大附設高校卒
1965年 3月	京都大学文学部国史学科卒
4月	毎日新聞社入社、新潟支局、大阪本社社会部、東京社会部、サンデー毎日編集部、クエーカータウン・フリープレス社に1年職場留学、外信部（テヘラン特派員）、サンデー毎日編集長
1989年 8月	毎日新聞退社
10月	テレビ朝日系列「ザ・スクープ」キャスター
1995年10月～2001年3月	同上「サンデージャングル」キャスター
2002年10月～	「ザ・スクープスペシャル」キャスター
2002年10月～2011年3月	「スーパーモーニング」コメンテーター
2002年10月～2005年3月	TBSラジオ「CUBE」
2003年 4月～2005年3月	関西大学社会学部教授
2004年 4月～2005年3月	フジテレビ系列「僕らの音楽」
2005年 4月～	TBSラジオ「大沢悠里のゆうゆうワイド」（月曜日）
2008年 4月～	BS朝日「医療の現場」キャスター
2009年7月～	岩谷時子音楽文化振興財団・評議委員

プロフィール

1940年3月13日生まれ。福岡県吉井町(現うきは市）出身。

京都大学文学部卒業後、毎日新聞社に入社。新潟支局、大阪社会部、東京社会部、「サンデー毎日」編集部に所属し、外信部(テヘラン特派員）を経て1988年4月より「サンデー毎日」編集長。

1989年に退職して以降、テレビ朝日系列「ザ・スクープ」「サンデージャングル」でキャスターを務めるなど、テレビメディアに活動の場を移した。

2005年、ステージ4の大腸がんが発覚、肺や肝臓への転移を経て4度の手術を行った。2010年から始めたスポーツジムに加え2012年にはホノルルマラソン完走を果たすなど健康的なライフスタイルを貫いている。現在もさまざまなメディアで「ニュースの職人」として活躍中。

主な著書

『がん患者』（講談社）
『祖父の流儀（ダンディズム）』（徳間書店）
『桶川女子大生ストーカー殺人事件』（メディアファクトリー）
『ニュースの職人』（PHP研究所）
『人間力の磨き方』（講談社新書）
『鳥越俊太郎のエンディングノート』（アーススター）
『あめりか記者修行』（中公文庫）
『異見―鳥越俊太郎のジャーナリズム日誌』（現代人分社）
『細野豪志の証言』（講談社）

メディア

テレビ朝日「ザ・スクープスペシャル」キャスター　（日曜日　14：00～15：25　※年5回不定期放送）
BS朝日「鳥越俊太郎　医療の現場！」司会　（毎週日曜日　10：00～10：30）
KBC九州朝日放送「KBCニュースピア　鳥説」（毎月第3or第4木曜日　18：25～19：00）
KBC九州朝日放送「アサデス。KBC」（毎月第3or第4金曜日　6：25～8：00）
TBSラジオ「大沢悠里のゆうゆうワイド　世間ニュース」（毎週月曜日　9：00～9：24）
ポッドキャスト「ニュースの職人チャンネル」（毎週水曜日配信　http://podcast.kiqtas.jp/torigoe/）

「がん生存者研究の推進」

山口　建
（やまぐち・けん）

静岡県立静岡がんセンター　総長

略　歴

1974年　慶応義塾大学医学部卒
1999年　国立がんセンター研究所副所長。同年宮内庁御用掛（併任）
2002年より現職。慶應義塾大学客員教授、大阪大学招聘教授併任
2000年　高松宮妃癌研究基金学術賞
2014年　ISOBM　ABBOTT賞などを受賞
厚生労働省「がん診療連携拠点病院の指定に関する検討会」委員、（公財）がん研究振興財団理事、（公財）日本対がん協会評議員、（公財）高松宮妃癌研究基金評議員などを務める。
研究領域は乳がん治療、腫瘍マーカー、がんの社会学。

「国の施策と国立がん研究センターの取組み」

堀田　知光
（ほった・ともみつ）

独立行政法人国立がん研究センター
理事長・総長

略　歴

1969年　名古屋大学医学部卒業
1970年　名古屋大学医学部第一内科入局
1990年　名古屋大学医学部第一内科講師
1996年　東海大学医学部内科学教授
2002年　東海大学医学部長
2006年　国立病院機構名古屋医療センター院長
2012年　国立がん研究センター理事長・総長に就任。
専門は血液内科（特に悪性リンパ腫の治療）。日本内科学会認定医、指導医、日本血液学会専門医、指導医。

主な社会活動（各種委員等）

内閣官房　健康・医療戦略室 健康医療戦略参与、厚生労働省 がん対策推進協議会委員、医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会座長、革新的がん医療実用化研究事業事前評価委員会・企画書評価委員会座長、日本学術会議　連携会員、公益財団法人日本対がん協会理事、公益財団法人がん研究振興財団理事、公益財団法人高松宮妃癌研究基金理事など公職多数

主な学会活動　日本臨床腫瘍学会　功労会員、日本血液学会　名誉会員、日本リンパ網内系学会　名誉会員、日本癌学会会員、日本内科学会会員、米国臨床腫瘍学会会員、米国血液学会会員

「労災病院が行う両立支援のモデル事業について」

野村　和弘
（のむら・かずひろ）

独立行政法人労働者健康福祉機構
特任研究ディレクター

略　歴

1967年　東京大学医学部卒業。医学博士。
1975年　米国州立カリフォルニア大学　サンフランシスコ校留学。
1977年　国立がん研究センター中央病院に勤務。副院長、院長を経て現在名誉院長。
2006年　労働者健康福祉機構　東京労災病院　院長
2012年　労働者健康福祉機構　東京労災病院　名誉院長
現在、労働者健康福祉機構　特任研究ディレクター
この間、国のがん専門関係における厚生科学審議会専門員、第３次対がん10か年総合戦略事業　研究企画・事前評価委員、がん臨床研究事業　研究企画・事前評価委員、など各種委員会の委員、日本対がん協会評議員、ヒューマンサイエンス振興財団理事、がん研究振興財団　評議員等を歴任。
現在　日本癌学会名誉会員、日本サイトメトリー学会名誉会員、脳腫瘍病理学会功労会員、日本脳神経外科専門医、日本・イラク医学協会理事、公益法人颯田奨学会理事、一般財団法人全日本労働福祉協会評議員、米国癌学会、米国脳神経外科学会、国際サイトメトリー学会会員

第二部：パネルディスカッション

【目的】

厚生労働省及び東京都のがんの両立支援政策と、国立がん研究センター、静岡県立がんセンター、労災病院など医療機関の取組み、そして患者の立場からNPO法人代表の意見などをディスカッションし、がんの両立支援の今、そして今後の方向性について情報を共有する。

【パネリスト】

宮田　辰徳（みやた・たつのり）

厚生労働省　健康局
がん対策・健康増進課　課長補佐

山田　善裕（やまだ・よしひろ）

東京都福祉保健局　医療政策部
歯科担当課長

山口　　建（やまぐち・けん）

静岡県立静岡がんセンター　総長

堀田　知光（ほった・ともみつ）

独立行政法人国立がん研究センター
理事長・総長

野村　和弘（のむら・かずひろ）

独立行政法人労働者健康福祉機構
特任研究ディレクター

門山　　茂（かどやま・しげる）

東京労災病院
治療就労両立支援（がん分野）部長

河村　裕美（かわむら・ひろみ）

NPO法人オレンジティ 理事長

略　歴

熱海市出身。静岡県庁職員。社会福祉士・PRプランナー。1999年7月結婚、1週間後に子宮頸がんを宣告され治療。闘病中の経験から、患者サポートの重要性を認識し、2002年にサポートグループ「オレンジティ」を設立。2004年にＮＰＯ法人化し、患者サポートに加え、一般向けに検診啓発も始める。2009年4月にティール＆ホワイトリボンプロジェクトを設立。2013年5月に甲状腺がんを治療。全国向けに子宮頸がんの啓発を開始。現在は、講演、セミナーの開催など企業、医療機関と連携し、患者のサポートに加え、地域格差や女性特有のがんの予防啓発にも取り組んでいる。

オレンジティホームページ http://o-tea.org/

司会・閉会挨拶

【第一部：講演　司会】

寺本　明（てらもと・あきら）

がん両立支援モデル事業中核的施設
東京労災病院　院長

略　歴

1973年　東京大学医学部卒業
1978年　水戸済生会病院脳神経外科部長
1979年　日本脳神経外科学会専門医
1980年　文部教官（東京大学医学部助手）
1981年　医学博士
1983年　東京警察病院脳神経外科医長
1990年　文部教官（東京大学医学部講師）
1993年　虎の門病院脳神経外科部長
1995年　日本医科大学脳神経外科主任教授
2006年　日本医科大学大学院医学研究科長、同学校法人評議員
2012年　東京労災病院　院長、日本医科大学　名誉教授
　　現在に至る

学会役員・社会活動

日本脳神経外科学会 理事長
日本脳神経財団 常任理事
日本医師会 疑義解釈委員会・保険適応検討委員長、学術企画委員
日本医学会 評議員
日本学術会議 連携会員
地方公務員災害補償基金 審査長
など

【第二部：パネルディスカッション　司会】

嶋田　紘（しまだ・ひろし）

横浜市立大学名誉教授

略　歴

1969年　横浜市立大学医学部卒業
1969年　横浜市立大学第二外科入局
1985年　英国ケンブリッジ大学、米国ピッツバーグ大学へ肝移植留学
1988年　福井医科大学第一外科助教授
1992年　横浜市立大学第二外科教授
1998年　横浜市立大学副病院長
2005年　横浜市立大学医学部長
2009年　(独)労働者健康福祉機構特任研究デイレクター
2010年　(医)春江病院名誉院長
専門は消化器外科、特に肝移植を含めた肝胆膵疾患の外科治療

主な学会活動

国際消化器外科学会会長（ＩＳＤＳ）、日本外科学会特別会員、日本消化器外科学会特別会員、日本肝胆膵外科名誉指導医、日本胆道学会名誉会員、日本肝移植研究会名誉会員、手術手技研究会名誉会員、神奈川県臨床外科医学会会長

主な社会活動

横浜市医療政策有識者会議委員、㈳親善福祉協会理事、㈶医用原子力技術研究振興財団（粒子線がん治療にかかる人材育成評価委員）、英文誌（World J Surgery, Langenbeck's Archives of Surgery など）の編集委員

著書

エンドトキシン測定法の進歩（エンドトキシン研究会）
消化器外科専門医に必要な周術期管理（インターメルク）
ＰＧＥ１の肝保護作用（診断と治療社）
肝再生と肝不全（西村書店）
医学教育（診断と治療社）

【閉会挨拶】

加藤　賢朗（かとう・よしお）

独立行政法人労働者健康福祉機構
理事　副総括研究ディレクター兼務

略　歴

1977年東京大学医学部卒業。東京大学医学部附属病院などで勤務。その後米国UCLA-Cedars Sinai Medical Center留学、香川大学医学部講師、東京大学医学部助教授、虎の門病院部長を経て2012年より現職。